

ASSOCIATION OF
MUSICAL ELECTRONICS INDUSTRY

AMEI

news

1998年3月10日発行

Vol.6

「MIDI WORLD '97」期待通りの大盛況!!



「MIDI WORLD '97」が、平成9年10月23日～26日・4日間池袋サンシャインシティ「ワールドインポートマート4F」で、「楽器フェア'97」と併催にて盛会裡に実施された。

CONTENTS

「MIDI WORLD '98」開催のお知らせ.....	2
「MIDI WORLD '98」開催ポイント、来場動員対策.....	3
「MIDI WORLD '97」開催結果報告.....	4
「MIDI」商標の積極的活用・使用の運動展開と AMEI協会としての活用・使用ルール.....	5
業務用通信カラオケによるJASRAC管理著作物の 利用に関する使用料規定 ...	6
「ネットワーク音楽著作権問題協議会」発足と 「JASRACとの定期協議会」開催経過と今後の予定	7
MMA 総会とPre-Meeting.....	8・9
GMシステム・レベル2主な仕様	10
AMEIよりのお知らせ	11
AMEI会員名簿	12

「MIDI WORLD'98」開催のお知らせ

近年、デジタル音楽を取り巻く環境が変わりつつあります。ひとつは、パソコンとインターネットの存在です。パソコンはすでに、音楽を体験するオーディオとしての立場を確立しはじめています。CDやCD-ROMで音楽が楽しめるほか、DTM(Desk Top Music)システムによって、楽器が弾けない人、あるいは楽譜が読めない人にも音楽を作る楽しみを与え、音楽をより身近なものにしたといえるでしょう。またインターネットは個人が映像や音楽などで自由に表現・発表することを可能にし、個人の情報発信能力、表現意欲を刺激し続けています。

もうひとつは、音楽界の大きな流れが変わりつつあることです。現在、テクノミュージックは再び大きな盛り上がりを見せています。日本発のミュージシャンが世界レベルでの活躍を見せ、連日ヒットチャートを賑わせています。また坂本龍一氏によるインターネットライブの成功や、インターネットによる楽曲流通が本格化しつつあるなど、デジタルな形の音楽が、一般の人々にも無理なく受け入れられる素

地を作り出しています。

こうした新たな音楽的環境とデジタル音楽機器ユーザーの出現は、今までのデジタル音楽／楽器の世界にさらなる広がりを与えるひとつのきっかけとなるに違いありません。

これらを踏まえ、社団法人 音楽電子事業協会はデジタル音楽事業および関連産業振興の一環として、日本経済新聞社と共に「MIDI WORLD'98」を開催いたします。本展示会では、電子楽器およびMIDI規格を利用したシステム、ソフト、サービスを紹介しながら、新しいインフラによる新しいデジタル音楽文化の創造と発展を目的としています。

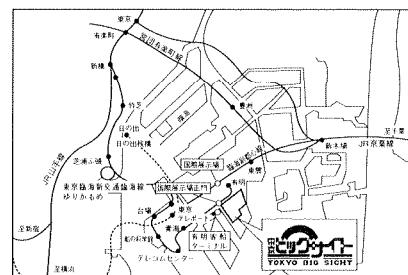
つきましては本展示会の開催趣旨をご理解いただき、是非ご参加・ご出展賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

社団法人 音楽電子事業協会
日本経済新聞社

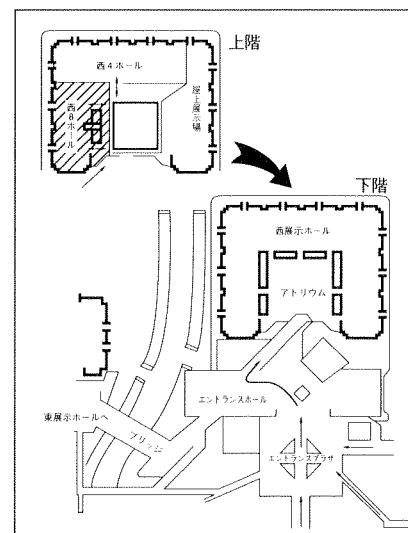
開催概要

- 名 称 MIDI WORLD '98
- サブタイトル 音楽・夢・ネットワーク
- 会 期 1998年7月24日(金)～26日(日) 10:00-17:00 (予定)
〔搬入：1998年7月22日(金)、23日(土)〕
- 会 場 東京国際展示場・東京ビッグサイト 西3ホール（東京都江東区有明3-21-1）
- 主 催 社団法人 音楽電子事業協会、日本経済新聞社
- 後 援 通商産業省、文化庁 (予定)
- 協 力 財團法人マルチメディアコンテンツ振興協会、日本楽器フェア協会、日経BP社、日経ホーム出版社、テレビ東京など (予定)
- 協 賛 音楽・コンピュータ関連団体、出版社など (予定)
- 展示規模 40社200小間 (1小間=縦3m×横3m、予定)
- 併設企画 コンサート、チュートリアルなど
- 出展対象 ◎MIDI関連楽器・機器
(キーボード、シーケンサー、音源モジュール、レコーディング機器など)
◎電子機器
◎MIDIを利用したソフト (DTMソフト、MIDIデーター、エデュテイメントソフトなど)
◎音楽ソフト (CD、CD-ROM、CDエクストラなど)
◎パソコンおよび周辺機器
◎通信カラオケ、ネットワークによる楽曲配信システムなど
◎電子音楽関連の専門学校、スクール
◎デジタル音楽関連情報、出版など
- 同時開催 ～家族はじめのパーソナル・マルチメディア～ばそまる'98
(主催：日本経済新聞社)
- 来場対象 ◎音楽に関心のあるパソコンユーザー
◎MIDI機器ユーザー (アマチュア/ミュージシャン・アーチスト/音楽事業関係者)
◎電子楽器演奏および作曲を趣味とする一般
◎音楽流通関係者 (楽器店経営者、楽器卸商など)
◎音楽関連商品の開発担当者、デジタルエンターテイメント関連産業者など
- 来場者数 6万人 (見込み、同時開催イベントと共に10万人の見込み)
- 入 場 料 500円 (予定、消費税込み) ※中学生以下は無料

■会場への交通案内

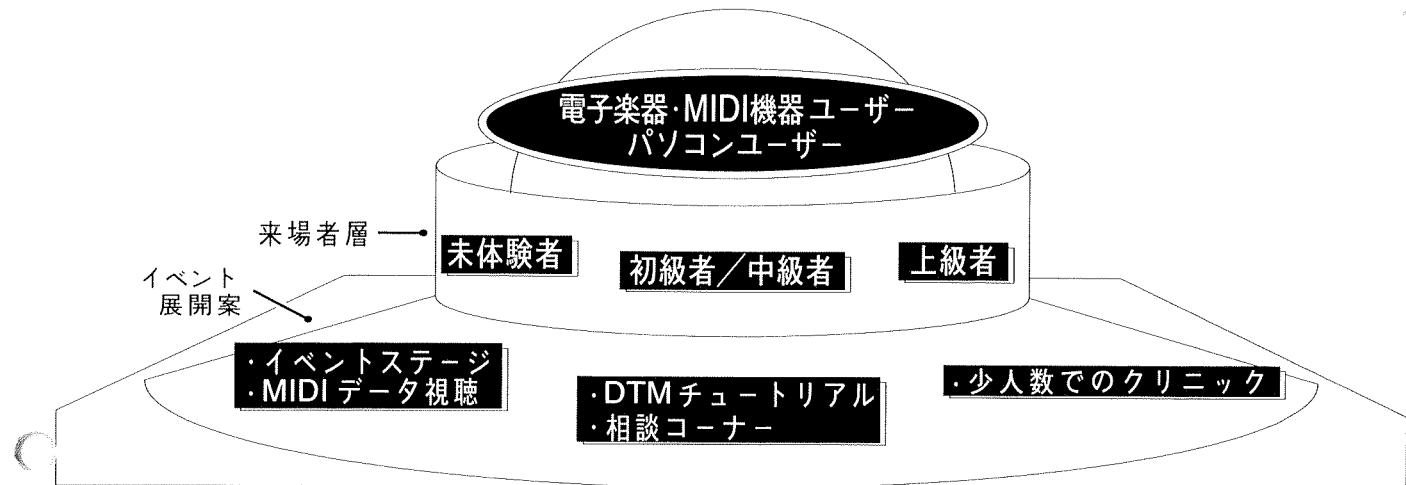


■ビッグサイト会場図



開催のポイント

- 初心者からプロフェッショナルまで……幅広い層に対応した主催者展示を予定
これから音楽を始めようという人から、よりパワフルに、幅広く電子楽器・MIDI機器を使いこなしたいというパワーユーザーまで、デジタルミュージックを楽しみたい全ての人々に対応した展示を目指します。出展社の皆様のご協力をお願いいたします。



- 1) 音楽を趣味とする一般、MIDI未体験者層………リスニング中心に
・イベントステージによる演奏、トークショー
・様々なサービスの紹介
ex) インターネットによる音楽配信サービス試聴コーナー
- 2) MIDIに興味のある未体験者層、あるいはMIDI初級・中級者………レクチャー形式で
・パソコンによる大規模DTMチュートリアル
・MIDI質問コーナー（楽器店、パソコン販売店による相談コーナー）
- 3) MIDI上級者………専門クリニック
・有名アーチストによる小人数のクリニックを開催

●大型イベントと同時開催！

ファミリー層を中心に、情報機器やネットワークを活用した新しいライフスタイルを提案する展示会「家族のためのパーソナル・マルチメディア ばそまる'98（主催：日本経済新聞社）」と同時開催。来場動員や宣伝・PR活動で連携をとり、スケールの拡大を図ります。

「MIDI WORLD '97」の会場スナップ風景



来場動員対策

◎効果的な来場動員対策を紹介します。

●日経グループの媒体による告知

日経各紙での記事掲載、日経BP社／日経ホーム出版社の関係各媒体へのパブリシティを行います。

●専門媒体への告知・タイアップ

デジタル音楽関連雑誌への広告・パブリシティを行い、本展示会のコアターゲットにアプローチします。またタイアップを行うことで、よりユーザーに魅力的なイベントの開催を企図します。

●一般雑誌への告知

タウン情報誌、若者向け雑誌への告知を行います。一般に広く呼びかけることで、MIDI機器ユーザー層の拡大をねらいます。

●パソコン雑誌への告知

MIDI機器の潜在的な購買層であるパソコンユーザーへのアプローチを行います。

●ダイレクトマーケティング

これまでのMIDI WORLD来場者などへダイレクトメールを送付するほか、都内楽器店／CDショップ／パソコンショップなどに動員チラシを配布します。

●交通媒体の活用

JRおよび都内私鉄・地下鉄への車内づりを行います。

●情報ネットワークの活用

インターネット上に専用ホームページを立ち上げ、イベントの最新情報や出展製品の情報を提供します。

「MIDI WORLD'97」開催結果報告

開催報告

- 名 称：MIDI WORLD '97 -音楽とコンピュータとネットワーク-
- 会 期：1997年10月23日(木)～25日(土) 10:00 AM～6:00 PM
10月26日(日) 10:00 AM～5:00 PM
- 会 場：池袋サンシャインシティ 「ワールド・インポートマート4F 展示場A-1」 (1568m²)
(〒170 東京都豊島区東池袋3-1)
- 主 催：社団法人音楽電子事業協会
- 後 援：通商産業省、日本経済新聞社、日本楽器フェア協会
- 併設企画：「MIDI WORLD '97」セミナー
 - 1 明日から売れるDTMコーナー作りの基礎知識
 - ・主 催：社団法人音楽電子事業協会・ソフトウェア委員会
 - ・日 時：10月24日(金) 14:30～16:00 ワールドインポートマート8F
 - 2 大村典子先生の音楽によるコミュニケーション術
 - ・日 時：10月26日(日) 14:30～15:30 ワールドインポートマート8F
- 来場者数：45,850人・(楽器フェア総入場者数：105,616人)
 - 10月23日(木) (晴れ) 8,930人
 - 24日(金) (晴れ) 11,300人
 - 25日(土) (晴れ) 13,030人
 - 26日(日) (晴れ) 12,590人

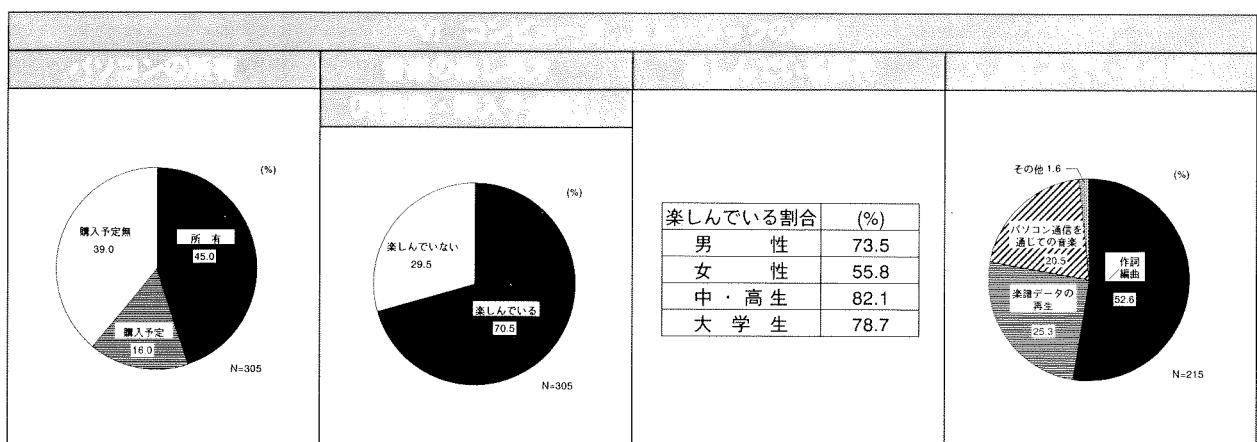
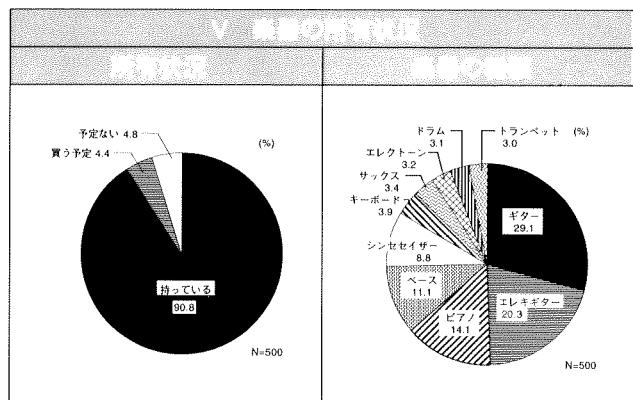
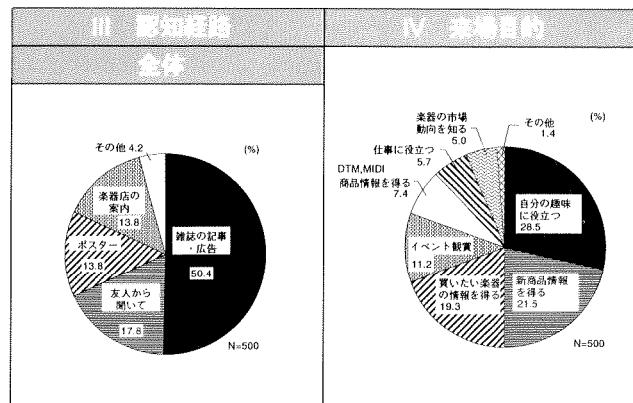
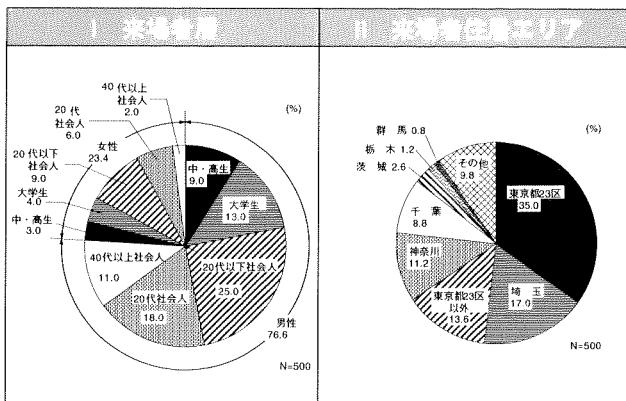
出展社一覧

(24社)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| アップルコンピュータ株 | 有限インターネット |
| エディロール株 | N EC |
| エンソニックジャパンインコーポレイテッド | カシオ計算機株 |
| 株カメオインターラクティブ | 株河合楽器製作所 |
| 有限キュービックエナジー | 株グローバル |
| 株コルグ | 株シーミュージック |
| シャープ株 | 東京通信機工業株 |
| 株ディスカバリーファーム | 日本アイ・ビー・エム株 |
| 日本データパシフィック株 | 松下電器産業株 |
| 株ミディア | 株ミュージック・シーオー・ジェーピー |
| ヤマハ株 | 株リットーミュージック |
| 株リムショット | ローランド株 |

来場者アンケート分析

(楽器フェア全体の来場者分析)



「MIDI」商標の積極的活用・使用の運動展開と AMEI協会としての活用・使用ルール

「MIDI」商標は今まで、「旧11類 電気機械機器・電気通信機器・電子応用機器等」において、社団法人音楽電子事業協会の登録商標になっておりますが、今回「第15類 楽器・おもちゃ等」「第16類 書画・写真等」についても社団法人音楽電子事業協会の団体商標として登録されました。。その活用・使用について下記「提案1」「提案2」が書面理事会にて承認（2月19日）されました。

会員各位の積極のご参加をお願いいたします。

提案1、「MIDI」の商標使用ルール

[基本的考え方]

- AMEI会員全員が平等に、あるルールの基に自由に、活用・使用できる。
- 原則的にはAMEI会員以外の「MIDI」商標使用を禁じ、使用者にはAMEI会員としての入会を勧める。
 - (A) MIDI機能説明用語として使用する場合、MIDIの群を表示する場合
(例：MIDI機器、MIDI SYSTEM、MIDI CONTROLLER)
 - 普通名詞化し、会員は説明用語として自由に使用できる。
 - 商標登録は出来ない、しない。
- (B) ◎-1 MIDIと識別力を具備しない語との結字表示（楽器・音楽・音等との結字）
(例：MIDI PIANO、MIDI GUITAR、MIDI KEYBOARD、ETC)
 - ◎-2 MIDIと識別性を具備する他の語との結字表示（MIDI機能と本来関係のない言葉との結字）
(例：MIDI BOY、MIDI HOUSE、MIDI LAND、ETC)
- 商品カテゴリー名として普通名詞化し、会員は自由に使用できる。
- 必ず「ハウスマーク」と「固有機種名」が明確となる表示をする。（本体、チラシ、カタログ、取説等）
(例：ヤマハ MIDI PIANO YP-22)
- 商標登録出願をしない。
- 上記◎-2の場合の結字表示使用は混乱を避けるため、事前に社団法人音楽電子事業協会事務局まで届ける。

[今後の商標使用・活用の運営]

- 総務委員会に商標部会を設置
- 上記 原則にあてはまらないケース、原則に定めない事項、及び問題点として提起された事項については、会員及び事務局の要請により総務委員会商標部会にて協議し定める事とする。

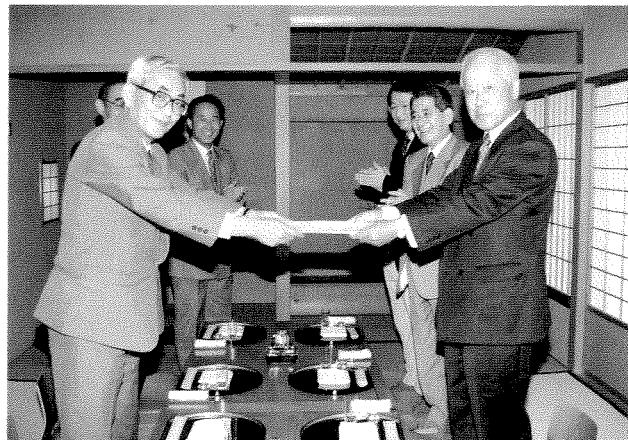
提案2、「MIDI」商標の普及（ハード、ソフトへの表示）

- ◎「MIDI」搭載商品（ハード&ソフト）に対し、必ず下記表示をして、「MIDI」商標及び商標所有者を会員全員でPRする。（カタログ、一ナーズマニュアル、チラシ等に）

「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
- ◎「MIDI」商標を表示・使用する「AMEI会員以外の事業者」をAMEI会員として入会する事を積極的に勧める。
- ◎「MIDI」「GENERAL MIDI」の商標登録ロゴの使用を推奨する。

業務用通信カラオケによるJASRAC管理著作物の利用に関する使用料規定

社団法人日本音楽著作権協会（甲）と社団法人音楽電子事業協会とは、カラオケ事業者が、甲の管理する音楽著作物を、「業務用通信カラオケ」により、利用することについて、下記「業務用通信カラオケ規定」に合意した。



平成9年10月3日、京王プラザホテルにてAMEI・JASRACのトップ会談が行われ、「業務用通信カラオケによるJASRAC管理著作物利用に関する合意書」が締結された。

【業務用通信カラオケ規定】

カラオケ伴奏用に著作物（歌詞を含む。）をコンピュータ等の記憶装置にデータベースの構成部分として複製し、かつ送受信装置を用いて、社交飲食店やホテル、旅館、カラオケ歌唱室等の事業所に送信し、提供するシステム（以下「通信カラオケ」という。）により、著作物を複合的に利用する場合、（ただし、受信先における演奏・歌唱、は除く。）の使用料は、次の1及び2によりそれぞれ算出した金額を合算して得た金額に、消費税相当額を加算した額とする。

1 基本使用料

(1) 包括的利用許諾契約を結ぶ場合

受信先において利用できるすべての著作物について、1カ月ごとに定めることとし、その月額使用料は、下記のとおりとする。

アクセスコード数	月額使用料
500 コードまで	50,000 円
1,000 コードまで	100,000 円
2,000 コードまで	200,000 円
3,000 コードまで	300,000 円
4,000 コードまで	400,000 円
5,000 コードまで	600,000 円
6,000 コードまで	800,000 円
7,000 コードまで	1,000,000 円
8,000 コードまで	1,200,000 円
9,000 コードまで	1,400,000 円
10,000 コードまで	1,600,000 円
12,000 コードまで	1,800,000 円
14,000 コードまで	2,000,000 円
16,000 コードまで	2,200,000 円
18,000 コードまで	2,400,000 円
20,000 コードまで	2,600,000 円
20,000 コードを超える場合 2,000 コードまでを増すごとに加算する額	200,000 円

(2) (1)によらない場合

受信先において利用できるすべての著作物について、1カ月ごとに定めるものとし、その月額使用料は、使用時間5分までの著作物1曲につき200円とする。

2 利用単位使用料

(1) 包括的利用許諾契約を結ぶ場合

サーバー、端末機械等（以下名称を問わず「受信装置」という。）1台につき1カ月ごとに定めるものとし、その月額使用料は、情報料を課すべき受信装置1台あたりの月間の情報料の10/100の額又は1,050円のいずれか多い額とする。ただし、情報料の15/100の額が1,050円を下回る場合は、その額又は750円のい

ずれか多い額とする。

(2) (1)によらない場合

著作物1曲リクエスト1回ごとに定めるものとし、その使用料は、使用時間5分まで著作物1曲につき40円とする。

(通信カラオケの備考)

- ① 1(1)の規定の「アクセスコード数」とは、通信カラオケにおいてそのリクエストのために1データごとに付与しているコードの総数に97/100を乗じた数をいう。
- ② 月間の利用単位使用料の25/100の額が月額基本使用料を下回る場合の使用料は、アクセスコード数に関わらず、その利用単位使用料の25/100の額と同額とする。ただし、その合計額が50,000円を下回るときは、50,000円とする。
- ③ 2(1)の規定の「情報料」とは、通信カラオケを利用するにあたり受信先において通常支払うことが必要とされる受信等に伴う対価（消費税を含まないもの）をいい、いずれの名義をもってするかを問わない。
- ④ 情報料が不明の場合は、通信カラオケ事業者が得る受信装置1台当たりの情報料収入（いずれの名義をもってするかを問わない。）に180/100を乗じた額を情報料とすることができます。
- ⑤ 1(2)又は2(2)の規定を適用する場合において、次のいずれかに該当するときは、それぞれ次のとおりとする。
 - (ア) 使用時間が5分を超える場合は、5分までを超えるごとに、5分までの使用料に1(2)の規定の場合は200円、2(2)の規定の場合は40円をそれぞれ加算する。
 - (イ) 歌曲において楽曲に著作権のない場合又は本協会の管理外の場合は、1曲の使用料の6/12の額とする。
 - (ウ) 歌曲において歌詞が本協会の管理外の場合は、1曲の使用料の6/12の額とする。

「ネットワーク音楽著作権問題協議会（略称NMRC）の発足と 「JASRACとの定期協議会」開催経過と今後の予定

1、「ネットワーク音楽著作権問題協議会」の発足

目的：・ネットワークにおける音楽（著作権）の利用状況の把握、利用内容の整理、使用承諾のあり方（海外での許諾実例等）等の勉強会
・JASRACと使用許諾条件等の協議

参加：9団体

- ・株音楽電子事業協会
- ・株マルチメディアタイトル制作者連盟
- ・電子ネットワーク協議会
- ・株テレコムサービス協会
- ・株コンピュータソフトウェア著作権協会
- ・日本インターネット協会
- ・地域プロバイダー協会
- ・日本レコード協会
- ・UBA（UNIX BUSINESS ASSOCIATION）

世話人：代表世話人 佐々木隆一（AMEI）、
副世話人 高橋徹（IAJ）、塚本慶一郎（AMD）、
宮坂修史（ENC）

AMEIとして：「NMRC協議会」へは「著作権委員会伝送部会」が参加する事を伝送部会として決議、代表として佐々木隆一（著作権委員長）氏、西久保慎一（伝送部会長）氏、和田康孝（著作権副委員長）氏、小田聖之（ソフト委員長）氏がJASRACとの定例協議会に出席参加する事になった。

オブザーバー：通産省、郵政省、文化庁、芸団協が参加

2、JASRACとの定例会議

- ・平成9年 9月25日 第1回 各団体より実態報告と問題提起、定期協議会のスケジュール
- ・平成9年10月15日 第2回 コンテンツプロバイダーのネットワークにおける音楽の使用例の分類整理
- ・平成9年10月27日 第3回 ネットワークにおける音楽使用許諾のあり方（海外の許諾実例、日本での許諾に対する要望、許諾処理の必要範囲）
- ・平成9年11月25日 第4回 JASRACより「ネットワーク上での音楽の使用許諾に関する基本方針」説明

・平成 9年12月 2日

「インターラクティブ配信にかかる使用料案について」と「インターラクティブ配信にかかる使用料案」がJASRACより呈示される

・平成 9年12月 16日

NMRCのJASRAC案に対する考え方を世話人会で検討

・平成10年 1月 20日

NMRCのJASRACに対する提出要望案についてAMEIとしての意見を協議検討

・平成10年 2月

NMRCの要望案を作成

・平成10年 3月（予定）

第5回 JASRACとの定例協議会上記「JASRACへの要望書」（反論）及び「質問状」を提出

3、「ネットワーク音楽著作権問題協議会」

AMEIのネットワーク音楽著作権使用料に関する考え方

・（基本使用料）

原則として拒否する。

・（利用単位使用料）

*ストリーム配信は送信権処理をする。

収入の2/100

*ダウンロード配信は複製権処理をする。

収入の6/100あるいは8円10銭×曲数

*インターネット中継等も基本的に同じ処理（ストリーム）とする。

*収入に広告収入を含める。

*無料サービスの場合はサーバー運営予算の4%程度または最低保証額を定める。

*最低保証額はASCAPの年額最低保証500ドルを参考にする。

・（ホームページ、電子会議等）

*他の団体、協会の要望案を参考に検討する。

*一般ユーザの利用実態を調べるなどした上で決めるべき。

著作権委員会に「パッケージ部会」を新設

JASRACより「インターラクティブ再生が可能なソフトへの録音」（CD-ROM）料金案が、レコード協会、AMD、ビデオ協会等に呈示されているが、AMEIとしても関連会社が多数、会員に存在し、正式にJASRACへ協議開始を申請された。

平成10年3月（通産省、文化庁にも届出た）。

と同時にAMEI著作権委員会の中に「パッケージ部会」を新設し上記JASRAC案に対する反論、要望案を検討・作成し、JASRACと協議に入る事になった。

AMEI海外視察団

MIDI規格委員会主催による、第2回海外視察団に、18名の方々が参加された。

今回の海外視察では、米国NAMM Winter Marketの視察、MIDI規格の協議制定を行ってきたMMA（MIDI Manufacturers Association）総会への参加、AMEI / MMAから提案された各種プロポーザルの検討及び次世代のMIDIに関する meeting が行われ、MIDIの活用が新たに認識される中、活発な意見交換が行われるなど、有意義なものとなった。

1. NAMM Winter Marketについて

例年開催されていたアナハイム・コンベンションセンターが改裝工事のため、今年はロサンゼルスに会場を移し1月28日より2月1日まで、ロサンゼルス・コンベンションセンター

(会場面積約44,000m²) で「1998 NAMM International Music Market」が盛大に開催された。開催期間中は、天候にも恵まれ、NAMM当局の発表では、前年出展社よりも87社増の1,193社、また入場者数も4,500人ほど増え、63,160人を記録した。

2. MMAとのMeetingについて

●Technical Meeting

1月29日(木)12時から、ダウンタウンにあるオムニホテルにて Technical - meeting が開催された。

出席者はMMAからTom White (President & CEO), James Grunke (On Live Technologies), Athan Billias (IVL Multimedia Ltd.), David G. Oren (DACO Development), Robert Lee (Gulbransen Inc.), Rick Choens (Young Chang R&D), Bennett Sikes (Mark of the Unicorn), Keiko Ikeda (IVL Multimedia Ltd.) の8氏。

AMEIから亀山征二・高氏清巳（株式会社河合楽器製作所）、飛河和生・高橋賢一（日本ビクター株式会社）、福田 誠（カシオ計算機株式会社）、藤森潤一（ヤマハ株式会社）、山端利郎・青木英児（ローランド株式会社）、中田 健・神川信郎（独立音楽電子事業協会事務局）の10氏。

オブザーバーに Rex Weyler・Bill Gannon (Justonic), Werner Mohriok (Hermode Tuning System), Jean F Bohemier (Tune 1000) の4氏。合計22名であった。

まずMMA Tom White会長及び亀山MIDI規格委員会委員長より挨拶、出席者自己紹介のあと、MMA側のプロポーザルや C / A (Confirmation Approval), RP (Recommended Practice)に関する彼らの考え方が示されたあと、話し合いが始まった。

① SMF Language Extension

AMEIから既に提案された内容にTune 1000より新たなメタイベントの追加要求があり、WGメンバーの飛河氏とTune 1000 Jean F Bohemier氏が席を移し話し合ったが、結論まではいたらなかった。MMAはAMEIの提案で進めたいとしており、今後TitleやComposerなどの検索方法の解決、Lyric Meta Event を Lyric / Display Meta Event と名前を変え、AMEIのフォーマットを盛り込んでゆくことが最良と考えられる。

② GM システムレベル 2 及び AMEI Proposals

MMAでは、今回のAMEI ProposalsについてGML 2に組込むことを前提として作成されているが、GML 2だけでなく、

将来の柔軟性も考え、これらの提案に少し修正を加え、MMAメンバーに配信、メールによる書面審議を行いAMEIの希望している早期ポーティングを行うことを確認した。また、将来を考慮しMIDIをアプリケーションとプロトコルの2つの部分に分けたいとの、説明があった。

③ AMEI / MMA コミュニケーションについて

相互コミュニケーションの改善対策について話合った。年間の検討項目と優先順位をつけたスケジュールを作成し相互確認し合うこととし、AMEI / MMA合同のテクニカルボードやワーキンググループの可能性について話合った。NAMM以外にも日本で開催されるMIDI World開催時にも来日されることを提案した。

●Formal Meeting

1月31日(土)15時から、オムニホテルにてFormal Meetingが開催され、これからMIDIに関して話し合われた。出席者はMMAからTom White (President & CEO), James Grunke (On Live Technologies), Athan Billias (IVL Multimedia Ltd.), David G. Oren (DACO Development), Robert Lee (Gulbransen Inc.), Rick Choens (Young Chang R&D), Bennett Sikes (Mark of the Unicorn), Keiko Ikeda (IVL Multimedia Ltd.) の8氏。AMEIから亀山征二・高氏清巳（株式会社河合楽器製作所）、池内順一（株式会社コルグ）、飛河和生・高橋賢一（日本ビクター株式会社）、福田 誠（カシオ計算機株式会社）、



MMAとのミーティング

二間瀬剛・藤森潤一（ヤマハ株式会社）、ヨシ・沢田（ヤマハUSA）、山端利郎・青木英児・伊志嶺馨（ローランド株式会社）、中田 健・神川信郎（社音楽電子事業協会事務局）の13氏

① MPEG 4

MMAよりMPEG 4に関する活動の報告がありE-muのSoundFontが採用された事に対する不満と今後DLSをMPEG4に組込むことを提案することが話された。

② DLS 2

MMAでは今後、DLS 2をプロ用策定（DLS 1はマイクロソフトを中心にコンピュータ向けとして策定された）としていくとの説明があり、AMEIとMMAは協力して進めることとし、相互の合同ワーキンググループの可能性についても話し合った。

感想 今回初めてMMAとのミーティングに出席された中田専務理事によると、AMEIとMMAがMIDI規格について協調・協同作業をしていく事が重要であるとの認識は変わらないが、RP・SMF・DLS・MPEG等々の設定・改訂作業優先順位に大きな隔たりがあり、コミュニケーションの方法に相当な工夫が必要であることを感じた。

3. MMAの総会について

2月1日㈭7時30分のBreakfastから、オムニホテルにてMMA総会が開催された。出席者はMMAメンバー約60名とAMEIからのオブザーバー出席者であった。

総会は、オープンセッション、クローズドセッション、スペシャルセッションの3つに分かれ、夜8時近くまで開催された。

●会員以外の参加も可能なオープンセッションが8時30分より開催され、まずTom White会長他によるMMAの活動報告とAMEIからの提案も含めた動きが説明された。

またTech. Boardの運用について活発な意見交換があった。

●会員のみ参加可能なクローズドセッションでは次の5件についてのポーティングがあった。

- Iteam #91 SMF Device Name and Program Name Meta Event
ローランドUSAから反対意見が出された。

- Iteam #119 Response to Reset All Controllers
GML 2 やDLSとの関係の説明を確認したうえで、承認された。

- Iteam #135 Output Cable System Common Message (F5)
AMEIとの検討経緯を説明し、1394やUSBを説明した上ポーティングには至らなかった。

- Iteam #137 Sample Dump Standard Enhancements
全員が承認した。

- Iteam #144 File Reference SysEx Message
ローランドUSA他1社より反対があった。

●誰でも参加可能なスペシャルセッションが14時から開催され、約80名の参加者のもと、AMEIからの1394 / USBプレゼンテーションを開催した。まず、池内応用部会長の挨拶で始まり、マイク・ケント氏（ローランドUSA）によるUSBと

③ 電子音楽標準化委員会（JIS化委員会）

現状及び今後の予定について説明を行った。JIS原案作成がほぼ終了しAMEIホームページに掲載の上、第三者による原案チェックを開始する段階である。これからは、その結果をまとめて3月末に報告書を作成し、日本工業調査会に提出する。同調査会にて審査の後、JIS規格として制定の運びとなる。

④ IEEE1394&USB

現状はMIDI 1.0のプロトコルを使うことを説明し、このため今後MIDI 1.0をプロトコルとアプリケーションに分けて運用するための検討の必要性が相互確認された。このため合同ワーキンググループも確認されたが、運用の詳細については今後検討を要する。

1394のロードマップ説明、続いてローランド青木氏によるUSBのデモ、ヤマハ藤森氏による1394におけるオーディオ・ミュージックプロトコルの位置づけの説明とデモがあり、1時間半のプレゼンテーションが終了した。



MMA総会



1394 / USB プレゼンテーション

GMシステム・レベル2主な仕様

(詳細についてはGMシステムレベル2仕様書を確認のこと)

- 音源方式 限定しない。(各社それぞれの方式)
- 同時発音数 任意の音色の組み合わせにおいてトータル32ノート以上の同時発音数を持つこと。

●MIDIチャンネル

- ・すべてのMIDIチャンネル(1~16チャンネル)に対応した音源であること。
- ・すべてのMIDIチャンネルの初期モードは、モード3とする。
- ・メロディ・チャンネルでは、モード4(M=1のみ)に対応すること。
- ・各チャンネルで個別音色の演奏ができ、それぞれチャンネル・ボイス・メッセージ(ノート・オン/オフ、コントロール・チェンジ、RPN、チャンネル・プレッシャー、プログラム・チェンジ、ピッチ・ベンド)及びチャンネル・モード・メッセージを受信して、個別のコントロールができる。

●リズム・チャンネル

- ・10チャンネル及び11チャンネルは、リズム・チャンネルとして使用できること。
- ・10チャンネルの初期設定はリズム・チャンネルとし、11チャンネルの初期設定はメロディ・チャンネルとする。

●音色

- ・GML2サウンド・セット及びパーカッション・マップに記載されたすべての音色を内臓すること。
- ・音色名のディスプレイ表示は、GML2サウンド・セットの記載と異なってもよい。また、異なったプログラム・チャンジに対応して同じ音色を使用してもよい。例えば、基本音色の“41:Violin”と“42:Viola”が同じ音色でもよい。
- ・GML2のバンク“79 00”(16進数)は、GML1サウンド・セットと同じにすること。
- ・GML2のリズム・チャンネルにおけるプログラム1のノート番号35~81は、GML1のパーカッション・マップと同じにすること。
- ・GML2のバンク“78 xx”および“79 xx”(16進数)のプログラムのうち、GML2サウンド・セットで定義されていないプログラム番号は、将来の拡張のために予約されている。

●発音ピッチ

メロディ・チャンネル(調律楽器)の音色
〈音階樂器音〉

- ・音律の初期設定は平均律とする。
- ・中央Cをノート番号60(3CH)とする。
- ・ノート番号69で440Hzのピッチで発音すること。
(ファイン&コース・チューン及びピッチ・ベンドがセンターの時)

- ・GML2サウンド・セットに示すキー・レンジの±1オクターブ以上の範囲で正しいピッチで発音すること。
- ・このキー・レンジの範囲内の全鍵で、±1オクターブのピッチ・ベンドが正しく動作すること。また、GML2サウンド・セットに記載されたキー・レンジに関わらず、ノート番号36~96の範囲では正しいピッチで発音すること。
- ・GML2サウンド・セットに示すキー・レンジの範囲内では、それぞれの音色名の楽器らしく音質で鳴ること。

〈効果音〉

- ・音程や音律は任意である。
- ・ノート番号60~72で適正な音色/音高でなければならない。

リズム・チャンネル

- ・各鍵に所定のリズム音色をそれぞれ割り当てる。

●ボイス・アサイン

- ・新たなノート・オンを受信した時に空きボイスがあれば、チャンネルに関わらずそのボイスにアサインする。
- ・音源のすべてのボイスが発音中の時に新たなノート・オンを受信した場合や、同一鍵連打や同一鍵の多重オンの場合、ボイス・アサイナーの動作は各社が最善と考える方法をとってよい。

リズム・チャンネル

- ・ORCHESTRAセット(ノート番号88)及びSFXセット(ノート番号47~84は、ノート・オフによる消音処理を行なう。それ以外のリズム音色では消音処理を行なわない。
- ・スタンダード・セットの3つのハイハット音(ノート番号:42/44/46)は、オルタネート・アサインが必要。例えば、ノート番号46が発音中に、ノート番号42のノート・オンを受信したら、発音中のノート番号46のボイスを急速減衰させ、ノート番号42のボイスを発音させる。
- ・次の音色の組み合わせも、ハイハットと同様、オルタネート・アサインを行なうのが望ましい。

〈スタンダード・セット〉

- ショート・ホイッスル(71)/ロング・ホイッスル(72)
- ショート・ギロ(73)/ロング・ギロ(74)
- ミュート・クイーカー(78)/オープン・クイーカー(79)
- ミュート・トライアングル(80)/オープン・トライアングル(81)
- スクラッチ・プッシュ(29)/ブル(30)
- ミュート・スルドー(86)/オープン・スルドー(87)

〈アナログ・セット〉

- アナログCHH(42)/アナログCHH(44)/アナログCHH(46)
- 〈SFXセット〉

- スクラッチ・プッシュ(41)/スクラッチ・ブル(42)

●エフェクター

- ・チャンネルごとにセンド・レベルを設定できるコーラスとリバーブを各1基搭載すること。
- ・コーラス→リバーブの接続を用意すること。

AMEIよりのおしらせ

『これで解かった デジタルレコーディング』(ハンドブック) の発刊

プロからアマチュアまで役立つハンドブック 4月下旬完成

■監修・社団法人音楽電子事業協会デジタルレコーディング研究委員会

■著者 古山俊一

■A5サイズ

■定価(本体2,000円+消費税)

■AMEI会員領布価格(本体1,600円+消費税)

■発行・お問い合わせ

ミュージックトレード社 (Tel.03-3281-7491 / Info@musictrades.co.jp)

デジタルレコーディング研究委員会では、市場拡大が著しいデジタルレコーディング機器について、ユーザーの知識向上を目指したハンドブックを只今制作中! 4月下旬に完成いたします。

デジタルレコーディングに関わる基礎知識から機材の解説、各種機械間の接続やインターフェースのポイント、最新のキーワードを収録した用語集など——プロが手元に置いておいて役立つ情報、アマチュアが機材を取り扱っていくにあたって手助けとなるアドバイスを1冊にまとめました。古山俊一氏が執筆、委員会メンバーがメーカー間を越えた視野から監修にあたっています。ぜひご活用ください。

『マルチメディア・テキスト'98』(CD-ROM) の発刊

4月下旬完成・頒布

マルチメディア制作者の為の音楽・音響の技術の初步的なものから高度なものまで、広範な情報を修得できるテキスト CD-ROM 98年版。初級・上級により構成、最新技術項目が加えられた改訂版です。

(加筆された主な項目: 録音の基礎知識、ソフトウェアシンセサイザー、音源カード、シンセサイザーの最新情報、プラグインソフトウェア、新しい音楽ソフトウェア、USB、IEEE1394などのこれからの中のインターフェイス、DVDムービーソフトの制作のプロセス、等々)

■制作・著作 社団法人音楽電子事業協会マルチメディア推進委員会

■監修・編集 古山俊一

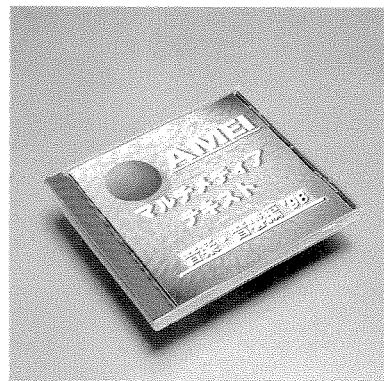
■定価・5,000円(会員領布価格 4,000円+消費税)

■発刊お問い合わせ・AMEI事務局

■内容・HTMLで書かれており、インターネット用プラウザで
プラットフォームに拘わらず読む事が出来ます。文字
のみでなく豊富な図版などが収録され概念がつかみ易い
内容です。

テキストの内容

1. HTML言語で書かれています。
ネットスケープやインターネットエクスプローラーでご覧になれます。
2. 豊富な図版が収録されています。
コンピューター画面や図解をCD-ROMに収録
3. 知りたい項目をすぐ調べることができます。
用語集としても便利です。
4. 各分野のマルチメディア制作に携わっているエキスパートが執筆しています。
5. オーディオトラックに様々な音の例を収録。
6. ハイブリッド仕様CD-ROMで、Windows・Macintoshどちらでも使用できます。



AMEIホームページの紹介 -デジタルレコーディング研究委員会-

<http://www.amei.or.jp/digitalnews.html>

デジタルレコーディング研究委員会は、デジタル音響機器に関するインターフェースについての問題点改善とユーザー知識の向上を目標として、毎月1回の会合を持っています。具体的な活動内容は次の通りです。

1. インプリメンテーション・チャートの立案と作成

MIDIインプリメンテーション・チャートのような、簡単に他機種との比較ができる表のフォーマット検討およびデータ作成、管理、呼称統一等を実施していると同時に、後述のインターネット・ホームページ制作やハンドブック出版に関しても、同様に主導的立場をとることを目指しています。

2. 互換性／ワーキング・グループ活動

異なるメーカーの機材を組み合わせてセットアップした際に、設定や接続に関して発生する諸問題を検証・解決し、ユーザーに公表できる事柄は後述のインターネット・ホームページやハンドブックを通じて啓蒙してゆきます。

3. デジタルレコーディング・ハンドブック

デジタル音響機器を使用する際に手助けとなる、便利な知識や役立つ情報を提供できるハンドブックの出版を目指しています。

4. インターネットホームページの制作

上記1~3の内容をまとめ、インターネットで閲覧できるようにいたします。

デジタルレコーディング研究委員会のホームページに是非一度ご来訪ください。

AMEI 会員名簿

(五十音順)

あ

株式会社アイ・オー・データ機器
有限会社アイシックス
株式会社アイデックス
赤井電機株式会社
アカソフト
株式会社アスキー
アップルコンピュータ株式会社

い

株式会社石橋楽器店
有限会社インターネット

え

株式会社エクシング
エディロール株式会社
株式会社エム研

お

株式会社大阪村上楽器
株式会社大阪有線放送社
有限会社オブ・インターラクティブ
株式会社音響総合研究所

か

株式会社楽販大阪
カシオ計算機株式会社
カスタムテクノロジー株式会社
株式会社カミヤスタジオ
株式会社カメオインターラクティブ
カモンミュージック株式会社
株式会社河合楽器製作所
株式会社神田商会

き

ギガネットワークス株式会社
有限会社キュービックエナジー
株式会社キューブ

く

クラリオンソフト株式会社

こ

株式会社コナミコンピューターエンタインメント東京
株式会社コルグ
コロムビア音響工業株式会社

さ

株式会社サウンドクラフト
株式会社サンワード

し

株式会社シーティーエー

株式会社シーミュージック
島村楽器株式会社
シャープ株式会社
株式会社ジャストシステム
学校法人 尚美学園

す

株式会社ズーム
株式会社鈴木楽器製作所

せ

セイコーインスツルメンツ株式会社
株式会社セガ・エンタープライゼス

そ

ソニー株式会社

た

株式会社タイカン
株式会社第一興商
株式会社タイトー
大日本印刷株式会社
株式会社タイムウェア
株式会社タムラ製作所

て

ティアック株式会社
TDK株式会社
株式会社電波新聞社

と

東映ビデオ株式会社
東京サウンド株式会社
東京通信機工業株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社友ミュージック

に

株式会社日光堂
ニフティ株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本コロムビア株式会社
日本シンセサイザープログラマー協会
日本電気株式会社
日本ピクター株式会社

は

バイオニア株式会社

ひ

株式会社P.F.U.
ピクター・テクニクスミュージック株式会社
ピクターレジャーシステム株式会社

ふ

株式会社フェイス
フォステクス株式会社
不二音響株式会社
富士通株式会社
株式会社ライトインターナショナル
株式会社プリマ楽器

へ

ペスタクス株式会社

ほ

株式会社朋栄

ま

マスター・ネット株式会社
松下通信工業株式会社
松下電工株式会社
松下電器産業株式会社

み

有限会社ミュージカルプラン
株式会社ミュージックネットワーク
株式会社ミュージック・シーオー・ジェーピー

も

株式会社モリダイラ楽器

や

株式会社山野楽器
ヤマハ株式会社
財団法人ヤマハ音楽振興会
ヤマハミュージックトレーディング株式会社
株式会社ヤマハミュージックメディア

ら

株式会社ラグナヒルズ
ラムズ株式会社

り

株式会社リットーミュージック
株式会社リムショット

ろ

ローランド株式会社

わ

株式会社ワキタ
〈会員会社 96 社〉
〈贊助会員〉

株式会社音楽之友社
株式会社ミュージックトレード
有限会社ミュレイディア
株式会社ヤスダコーポレーション
株式会社ラプラス

AMEI NEWS Vol.6 / 1998.3.10

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行：社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-16-9 イトービル4F

TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549 <http://www.amei.or.jp/>

発行人：中田 健

編集人：福田 誠（広報委員会）

編集協力：株式会社 ラプラス